

日本川崎病研究センターニュースレター

(No. 27)

2014. 1. 1

発行：特定非営利活動法人 日本川崎病研究センター

年 頭 雑 感

川崎富作

新年おめでとうございます。皆様方には、昨年にも勝る良い年であることを祈念しております。

残念ながら、昨年も川崎病の原因は分かりませんでした。今年こそただ祈るのみです。それには若い研究者の一層の努力を望んでおります。現在センターからは、川崎病類似のモデルの研究に研究費を援助しています。この研究に携わる先生方の努力には頭が下がる思いですが、その中から原因に繋がる研究が進むことが切に望まれております。この実験系での弱点は、川崎病独特の臨床症状が捕えられていないところにあるでしょう。現在、その試みがなされつつあると聞いていますが、期待しています。

最近、アメリカの研究者が *Lactobacillus casei* を使った動物実験でかなり免疫学的にかなりの成績が報告され、昨年 12 月初旬の関東川崎病研究会で講演がありました。

かって、徳川家光の帰依を受けた沢庵和尚が次の様な言葉を残しています。「事を成さんとしたら、本心一途にした方が良い。何事も血気に迷い、怖（お）じければそこなう。恐れざるは平常のこと。試合の場では怖じけは許されぬ。溝を飛ぶときは、ずんと飛べ。危いとおもえば落ち込むぞ。」

ここ一番の勝負を勇断決行してほしいものです。高さに挑み、それを成し遂げた時の達成感と自信は、人間を一回り大きく成長させます。是非ともより高きに挑戦して欲しいものです。

それはそれとして、私の趣味である「ケンダマ」が隠れた流行になっているときいています。しかも、色とりどりの物があるとか、海外からの逆輸入によるものらしく、古典的で素朴なケンダマに馴染んだ者にとっては、さまざまな感慨はあるものの、私にはとても嬉しく思われます。それにしても、広島から始まったとされているケンダマがこのような形で再び流行るとは思いもしませんでした。これからも長続きして欲しいものです。

最近、日本総本家という、テレビ番組を見ていると、日本人の智慧や工夫とこだわりが、いかに素晴らしいものであるかを感じさせられます。この一年も、若い先生方の智慧や、工夫、こだわりに期待して行きたいと思っております。

(当センター理事長)

Japan Kawasaki Disease Research Center

Japan Kawasaki Disease Research Center

ニュースレターNo.27 をお届けいたします。
ご意見ご感想をお寄せ下さい。

川崎病、なぜこんなに

「何でもあり」なのだろう。

鎌田政博

最近、9カ月女児が紹介になった。川崎病の診断で IVIG 2g/kg が投与されていた。CRP0.68mg/dl となり退院したが、無熱でその後1か月半も CRP 高値(5mg/dl 前後)が持続していた。来院時、川崎病の症状はなかったが、顔は腫れぼったく機嫌が悪かった。CRP 高値がここまで持続するのは尋常でないが、「何でもあり」が川崎病。IVIG 2g/kg 追加投与したところ、CRP は陰性化した。この後半の経過が川崎病だったのかどうか、本当のところは誰にも分からない。

「何でもあり」が川崎病。思い起こすと、該当するこども達は少なくない。虫垂炎疑いで小児外科紹介となったのは、4~5歳のこどもたち3人。当科へ転科した時点で、CRP は 12.0~24.6mg/dl と高く、1人は危うく開腹手術になるところだった。川崎病急性期に腹痛、血便が出現、血性アミラーゼ上昇と臍臓腫大を伴い、紫斑の出現によりアレルギー性紫斑病合併と診断した4歳男児。それから、川崎病の炎症所見が治まった後に関節炎を合併し、JIA との関係が心配された2歳女児。川崎病の治癒後半年もして、大動脈弁逆流が急に増悪した乳児もいた。第5病日以内に冠動脈瘤が形成されたと考えざるを得ないこども達も5名あり、うち1名は亡くなった。剖検では多発性の冠動脈瘤を伴っていたが、心筋梗塞像はなく、肥大した左室壁は心筋炎の組織像を呈していた。

そんな中で、最近気になっているのは中枢神経系合併症。過去14年間でみれば熱性けいれん3名の他、脳炎を合併した症例が

5名あった。それぞれに重要なケースであったが、特に2例で学ぶところが多かった

14歳の症例は、第2病日に胸痛、第5病日に失見当識、第6病日に歩行困難となり紹介となった。CRP22.7mg/dl, NT-proBNP 13488pg/ml であり、心エコーの左室駆出率は48%と低下、心嚢液貯留も伴っていた。急性心筋炎による循環不全状態と診断したが、CRP 高値で脳炎・脳症を伴い、何を考えるべきか随分悩んだ。しかし、その後眼球結膜を始めとする主要4項目が出現し、心エコー検査で冠動脈瘤も認めため川崎病と診断した。MRI 検査では MERS の所見が認められた。

7歳の女児は何年も前、年の末に紹介となった。川崎病典型例で CRP 12.2mg/dl、肝機能障害を伴い、元気がないのは当然だと思っていた。初診時73%であった左室駆出率は、翌日(第4病日)には48%にまで低下した。ドパミン、ミルリノンを開始、IVIG 2g/kg を投与したが発熱は持続した。CRP 22.4mg/dl、Cr 2.8mg/dl にまで上昇し、傾眠傾向が目立つようになったため、脳波を記録してみると高振幅徐波の所見であった。第8病日からメチルプレドニソロンのパルス療法を追加。一過性に右冠動脈が4.0mm まで拡張したが、中枢神経系の後遺症は伴わず退院した。

そう、「何でもありが川崎病」。これらの患者さんを経験して、脳炎合併例では心筋炎を、心筋炎合併例では脳炎にも留意して観察すること、CRP 高値の心筋炎をみれば川崎病を念頭におくことを教えられた。また川崎病で入院中の乳児がぐったりしていると、脳炎じゃないかと気になって仕方ない。そこで最近、急性期(IVIG 投与前)の

脳波をとり始めた。症例数はまだ 15 例ほどに過ぎないが、3 例で異常を認め、うち 1 例で新たに MERS の所見が認められた。半数以上に脳波異常を認めた満留ら（日児誌 85: 551-557, 1981）の報告には届かないが、症例が増えた時、結果はどのようなになっているのだろう。川崎病で機嫌が悪いのは、熱のせい？リンパ節が腫れて頸が痛いか

ら？手指が腫れて痛いから？それとも一過性軽症脳炎のため？（なお、川崎病の中枢神経系合併症、特に急性期のものの多くは予後良好と言われており、われわれの症例でも、これまでのところ後遺症を残したものはおりません）

（広島市立広島市民病院 循環器小児科）

Japan Kawasaki Disease Research Center

Japan Kawasaki Disease Research Center

第 3 4 回日本川崎病学会・学術集会 を開催するにあたって

寺井 勝

このたび、「第 3 4 回日本川崎病学会・学術集会」を学術総合センター（東京都千代田区一ツ橋）において、2014 年 10 月 31 日（金曜）～11 月 1 日（土曜）に開催させて頂くことになりました。翌年の 2 月にはハワイに於きまして、国際川崎病シンポジウムが開催されますが、その直前という時期ではありますが実りの多い学術集会にしたいと考えております。

川崎富作博士が川崎病を発見されて既に半世紀が経過しました。未だに、川崎病の病因は不明ではありますが、リウマチ熱が減少し川崎病患者が増え続けている疫学を考えますと、まさに先進国における現代病のひとつと言ってもよいかもしれません。高安病や川崎病など日本人により発見された血管炎が日本に多いことも个体側の因子と言えるでしょう。

治療法に関しては大きな進歩がみられ、川崎病による冠動脈疾患を併発する頻度は

激減いたしました。なかでも免疫グロブリン治療は大きなインパクトがあり、この免疫グロブリン治療に不応の乳幼児が冠動脈疾患発症のリスクが高まることは今ではよく知られた事実です。その免疫グロブリン不応例への治療法は未だに確立されておりませんが、21 世紀に入り、重症の川崎病に対する急性期治療の臨床トライアルが国内外で盛んになされてきました。

こうした経緯を踏まえ、今回の学術集会では、「発見後半世紀の軌跡と新たな展望」をメインテーマとして、病因や病態、治療法に関する、川崎病診療の骨格に関わるシンポジウムを企画いたします。また、近い将来、小児部門でも盛んになると思われる臨床治験に関する企画も盛り込み、看護師や臨床治験コーディネーターにもご参加いただける学術集会にしたいと考えております。

市民公開講座は、2 日目の午後に同時進行で行えればと考えております。市民公開講座の開催時刻を早めにする事で、小さいお子さんをお持ちの市民の皆様が参加し

やすいようにしたいと考えております。

東京では2020年にオリンピックが開催されることになりました。前回の東京オリンピックが開催された1964年はまさに川崎病が見出された時代です。来るわが国でのオリンピックまでには川崎病発症のメカニズムが明らかになり、急性期や遠隔期の治療法に更なる進展がみられることを期待して止みません。

多くの皆様にご参加を頂きますように、関係者一同で万全の準備を進めていく所存です。(東京女子医科大学八千代医療センター)

The 34th Annual Meeting of the Japanese Society of Kawasaki Disease

2014

メインテーマ
発見後半世紀の軌跡と新たな展望

会期
2014年
10月31日(金)
~ 11月1日(土)

開催期間
5月15日(木) ~ 6月20日(金)

会場
学術総合センター
(東京都千代田区一ツ橋)

会頭
寺井 勝
東京女子医科大学
八千代医療センター 小児科

濱田 洋通
東京女子医科大学八千代医療センター 小児科
〒118-8505 東京都千代田区八千代 4-1-1
TEL: 03-5520-5824 FAX: 03-5520-5825 E-mail: jskd@procom.jp

株式会社プロコムインターナショナル
〒100-0005 東京都千代田区千代田 1-1-1
TEL: 03-5520-5827 FAX: 03-5520-5828 E-mail: jskd@procom.jp

Japan Kawasaki Disease Research Center

Japan Kawasaki Disease Research Center

Japan Kawasaki Disease Research Center

Japan Kawasaki Disease Research Center

娘と川崎病

六車雅美

今年21才になった娘が川崎病と診断されたのは、5才の誕生日を迎えた1週間後のことでした。高熱が出て近所の小児科で抗生剤をもらいましたが熱は下がらず、そのうち耳の下が腫れてきて(症状はこれだけででした)、ようやく4日後に川崎病の疑いで大きな病院を勧められました。

その時私はなんと9か月の妊婦！運悪く近くの病院は全て満床。車で1時間の大学病院へ、とりあえずの物を持ち、タクシーで高速をとばしてもらい、即入院となりました。

主治医から説明を聞くものの、頭は真っ

白。時代背景もあり、[血液製剤]で半ばパニックに。結局一晩考え翌日からの投与となりました。

その後順調に…と思いきや、一度は熱が下がり症状も落ち着き、点滴を外した翌日から再発。[二峰性]の説明を受け、巨大瘤の恐怖、先の見えない真っ暗のトンネルを歩いている、そんな毎日でした。

私もいざとなれば、3人で入院で一す、なんて笑って言ったものの、流石に夜は、診断を待たず大きな病院へ駆け込めばよかったか？ガンマグロブリンを1日伸ばしたのがいけなかったのか？思いは自分を責めるものばかりでした。そんな中親の会の存在を知り、どれだけ気持ちを助けて頂いた

ことでしょう。

娘はガンマグロブリンの大量投与、ウリナスタチン、最終的にはステロイドでようやく熱が下がり、そこまで来るのに2ヶ月入院しました。そうです！私は臨月！予定日目前でした。娘は不幸中の幸いで、右に4.2ミリ、左に3.8ミリの小さな瘤と拡張だけで済み、半年後のカテーテルで退縮を確認、薬の服用も終了となりました。我が家は転勤族で、心カテを終えると夫の待つ赴任先へ。そうです、その半年の間に転勤が！親の会のお陰で、病院の情報などすぐに教えて頂き本当に助かりました。

自分の子どもが病気になった。この現実を受け入れられたのは一年経った頃でした。これから先、娘の健康管理を本人が意識できるようにしなければならない。年に一回の定期検査も、高校生になると時間が取りずらく、大きくなると仕方なく行く感じが強まります。我が家は5才でしたのでいくらか記憶がありますが、一般的には本人も覚えていませんから、自分のことをよく理解させ、成人になっても後遺症の有無に関わらず既往症に必ず記入し、定期検査をするよう教え込むのは大変なことだと痛感致しました。

大学生と成人なれば、飲酒、喫煙、食生活と心配だらけです。川崎病になったという事実を本人によく理解させ、世の中の認知度を上げていくには、まず親の意識の向上と医療機関への働きかけが不可欠かと思えます。又、教育現場で差別のないよう、学校への働きかけも必要だと思えます。

これだけの発症例があるのになぜ原因が判らぬのか、不可解な川崎病に悔しい気持

ちですが、予防接種等必ず発見され、たいしたことないよー、と言える日が必ず来ることを心から願っております。

さて、私のお腹はどうなったか!?みなさん気になりますか!?退院日が決まるとそれまでの緊張がほどけたのか、その夜におけるしがありました。急遽週末の予定を翌日に変更、午前中に娘が退院、午後から私が入院し、翌朝元気な男の子が生まれました。息子の年齢が、娘の川崎病のお付き合い年齢、となりました。嵐のような半年は今でも忘れることはありません。

末筆ながら川崎先生はじめ、皆様の益々のご活躍を心よりお祈り申し上げます。

(川崎病の子どもを持つ親の会)

Japan Kawasaki Disease Research Center

Japan Kawasaki Disease Research Center

Japan Kawasaki Disease Research Center



川崎先生米寿のお祝いの会にて奥様、お嬢様と。
(2012年2月7日 第10回国際川崎病シンポジウム・京都)

Japan Kawasaki Disease Research Center

Japan Kawasaki Disease Research Center

事務局から

【センター日報】

平成 25 年 5 月 17 日 平成 25 年度第 1 回理事会開催 6:00pm～（於:当センター）

平成 25 年 6 月 8 日 平成 25 年度第 2 回理事会開催 12:30pm～（於:エッサム神田）

平成 25 年 6 月 8 日 平成 25 年度総会と研究報告会（於:エッサム神田） 1:00pm

各年度の事業報告及び会計報告、次年度の事業計画及び予算計画は総会議事録と共に当センターでいつでも閲覧できますので、お気軽にお立ち寄りください。

平成 25 年 8 月 30 日 平成 25 年度公募研究選考委員会開催 17:00pm～（於:当センター）

平成 26 年 3 月 7 日 平成 25 年度第 3 回理事会開催予定（於:当センター）

【特定非営利活動法人日本川崎病研究センター会員総数 265】平成 25 年 12 月末現在
[正会員：100 名、4 法人、6 任意団体]：[賛助会員：151 名、3 法人、1 任意団体]

【研究会・講演会】

★ 第 38 回近畿川崎病研究会 平成 26 年 3 月 1 日（土）13:00～ 於:テイジンホール
会長:萱谷太先生（大阪府立母子保健総合医療センター）

★ 第 34 回東海川崎病研究会 平成 26 年 5 月 24（土）14:30～ 於:愛知県医師会館
地下 1 階「健康教育講堂」 当番幹事:犬飼幸子先生（名古屋市立大学病院小児科）

★ 第 33 回関東川崎病研究会 平成 26 年 6 月 日（土）15:00～ 於:日赤医療センター
事務局代表:土屋恵司先生（日赤医療センター小児科）

★ 第 34 回日本川崎病学会 平成 26 年 10 月 31 日-11 月 1 日（金・土）於:学術総合センター
会頭:寺井勝先生（東京女子医科大学八千代医療センター小児科）

★ 第 14 回北海道川崎病研究会 平成 26 年 10 月 日（土）16:00～ 予定 於:
代表世話人:南雲淳先生（手稲溪仁病院小児科）

★ 第 11 回国際川崎病シンポジウム 平成 27 年 2 月 3 日～6 日 於: Honolulu, Hawaii
問い合わせ先：日本川崎病研究センター Tel:03-5256-1121, Fax:03-5256-1124

★ 「川崎病の子供を持つ親の会」問い合わせ先： Tel:0467-55-5257 浅井 満

新会員募集にご協力ください!!!

正会員 年会費 20,000 円

賛助会員 年会費 5,000 円

【川崎病に関するご相談】

当センターでは、川崎富作理事長が川崎病に関するご相談を受けております(無料)。お電話お手紙、Fax 等でご相談をお寄せください。(電話：火曜日・金曜日：午後 2 時～)

特定非営利活動法人日本川崎病研究センター
〒101-041 東京都千代田区神田須田町 1-1-1 久保キクビル 6 階
Tel:03-5256-1121 Fax:03-5256-1124